

平成16年度 継続評価書

研究開発 課 題	次世代GISの実用化に向けた情報通 信技術の研究開発	研究開発 期 間	H15～H17
研究機関 (又は代表研究機関)	三菱電機株式会社	代表研究 責 任 者	情報技術総合研究所 表示システム技術部長 田中 聡

平成16年度研究開発の目標達成（見込み）状況

評価	コメント
b	<ul style="list-style-type: none"> ・16年度に目標としていた - 3次元GISデータの圧縮技術において、レーザ測量データ及び画像センサデータの10km四方サンプルデータを用い、圧縮率10%以下、圧縮時間をリアルタイム（レーザ）、30分以内（画像） - 空間データ適応管理技術においては、小さな端末画像面でも最適な表示用データの抽出により、40%の配信データ抽出で3次元景観の再現化を実現 - 携帯電話を想定した384kbpsの伝送路における3次元空間データの伝送の実現 <p>等については、研究テーマによって難易度の違いから進捗状況が一樣ではないが、すべて目標に向けての研究開発は着実に進んでおり、平成16年度の目標達成が見込まれる。</p>

平成16年度研究資金使用状況

評価	コメント
b	<ul style="list-style-type: none"> ・共同で研究開発を実施している3社においては、概ね資金を有効に使用しており、適切である。 ・「設備費」の中の「研究開発用機械装置リース費」は、当初計画より使用額を減少させているが、これは当初予定の研究開発が早く目標達成したことから、平成16年度研究開発過程で必要となった実証実験支援のための経費（「その他特別費」の中の「ソフト制作費」）等の調達に充当したためであり、資金の使用は適切である。

研究開発実施計画

評価	コメント
c	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発計画は具体的・効率的に設定されている。 ・全体的に精力的に進められ、それぞれの社が専属で研究開発に取り組んでいるが、他の機関で実施された類似研究との比較検討・評価を行い、この研究課題の新規性や有効性を客観的に示すことも必要である。

平成17年度予算計画

評価	コメント
b	<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度は当初計画より予算額が減少しているが、実験経費などの必要経費をさらに圧縮するなど効率的な予算計画を策定しており、妥当な予算計画である。

実施体制

評価	コメント
b	<ul style="list-style-type: none"> ・GISデータ取得はパスコ社が、移動体通信技術はNTTドコモ社が取得データの管理技術や圧縮技術等は三菱電機社が担当する、というように各社が得意とする分野の技術開発を行う研究体制が整っており、相互に連携が図られている。 ・研究開発を客観的に評価・指導する体制として、各分野の学識経験者6名による委員会体制を設置し、17年度も3回の委員会開催を計画している。 ・以上のとおり、実施体制は適切である。 ・なお、最終年度となる17年度は、すべての技術を統合する計画であるが、担当する研究課題にかかわらず、各社が有する技術を活用しあい、相互に協力することにより、研究開発の一層の進展が期待できる。

総合評価

評価	コメント
b	<ul style="list-style-type: none">・ 研究開発は当初計画どおりに進捗しており、平成 17 年度も継続することが妥当である。・ 研究開発の目標を数値化することも重要であるが、社会における種々の利用シーンを考えると、実証実験等を通じて一般ユーザにシステムを評価して貰うことも重要である。最終年度に当たり、個々の技術開発の推進と共にヒューマンインターフェースについて検討し、次世代GISの基盤となるような研究開発を行ってほしい。・ この研究開発成果が広く一般社会に活用されることを期待する。